

楽しみながら自分の思いを伝え合おうとする外国語活動の工夫
ー他教科と関連させた英語ノートの効果的な活用を通してー
ー交流の仕方を工夫した活動案の作成と実践を通してー
ー自分の思いや願いを表現しようとする場面を取り入れた交流活動を通してー

義務教育研究係

大澤 貴子 (小学校教諭)

横山 秀明 (小学校教諭)

木部 聡 (小学校教諭)

I 主題設定の理由

今日では、社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異文化との共存や国際協力が求められている。そのような中、進んで自分の思いを伝えたり、いろいろな国の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとしたりする態度を身に付けることが、ますます重要となってくるものと考えられる。このような背景を踏まえ、平成23年度より小学校第5学年及び第6学年に「外国語活動」がそれぞれ年間35単位時間位置付けられることになった。その目標は、『外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。』であり、外国語でのコミュニケーションを体験させることが大切であると言われている。コミュニケーション能力の素地とは、「外国語という音声を通じて、世界の言葉や文化に興味をもち、相手のことを受容し、自分のことも伝えようと人と積極的にかかわろうとする意欲や態度」と捉えた。

平成23年度の外国語活動の本格実施に向け、各校において準備を進めているものの、まだALT主体で授業が実施されることが多い。児童の多くは外国の言葉や文化に触れ、ALTと交流できる外国語活動を楽しみにしているが、英語で話したり、恥ずかしがらずにどの友達ともコミュニケーションをとったりすることには抵抗を示す児童が多く見られる。また、ALTとのゲームなどには楽しく取り組んでいるが、自分の思いを英語で伝えようとする意欲にはやや欠けると思われる。

この課題を解決していくために、英語ノートの活用を工夫したり、友達や教師との交流の場や身近なコミュニケーションの場面を設定した授業づくりを考えた。このことにより、英語に対する児童の興味・関心が高められ、英語に慣れ親しみ、楽しむようになると思われる。このように教材や活動の工夫を取り入れた授業づくりをすれば、児童が楽しみながら自分の思いを伝え合おうとする外国語活動につながると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらいと課題解決策

1 研究のねらい

小学校外国語活動において、教材や活動の工夫を取り入れた授業づくりをすれば、児童が楽しみながら自分の思いを伝え合おうとすることができるようになることを、本研究で明らかにしていく。

2 課題解決策

(1) 他教科と関連させた英語ノートの効果的な活用を通して

児童の興味・関心に即した題材を取り上げ、単元を構成する。そして、家庭科や食育で

児童が学習したり、経験したりしたことを生かしながら、英語ノートを活用する。また、英語ノートを使っていく中で、児童が英語をしっかりと聞き、それまでの活動で慣れ親しんだ英語を使いながら、自信をもって積極的に自分の思いを友達に伝え合おうとする場を意図的に単元に設定し、授業実践を行う。

(2) 交流の仕方を工夫した活動案の作成と実践を通して

①交流の形態をペア、グループ、クラス全体など授業のねらいに合わせて工夫し、活動案を作成する。そしてそれを活用しながら、児童が楽しみながら思いを伝え合えるような活動を行う。

②楽しみながらコミュニケーションをしようとする態度をはぐくむための活動を次のように分けて行う。

ア 教師や友達の話聞く活動 イ やりとりを楽しむ活動 ウ 思いを伝え合う活動
 (表現を理解する、慣れる) (表現に慣れ親しむ) (表現を使って伝え合う)

③ねらいに合わせて児童と教師、児童同士で絵カードなどを使いながら、自分の思いを伝え合う交流の場を一時間単位の中に必ず設定し、交流する楽しさを味わえるようにする。

(3) 自分の思いや願いを表現しようとする場面を取り入れた交流活動を通して

基本的な英語表現をやりとりすることに終始するのではなく、伝える目的をもち、伝える必然性のある活動を行う。そのために、英語を通して友達と自分の思いや願いを交流する活動では、児童の興味・関心に沿った身近な題材をもとに、英語を使って友達とやりとりをする中でお互いに情報交換ができる場面を取り入れて、授業実践を行う。

Ⅲ 課題解決のための具体的実践

1 具体的方策の実践概要について

(1) 他教科と関連させた英語ノートの効果的な活用を通して

① 単元の流れ

ア 単元名 「ランチメニューを作ろう」(第6学年)

イ 目標 ○日本と外国の料理の違いを知り、外国の文化の理解を深める。

○食べ物や料理のメニュー、丁寧な言い方の英語表現に親しみ、自分が作ったバランスのよいランチメニューを友達に伝える活動を通して、友達への理解を深める。

ウ 単元計画(全4時間)

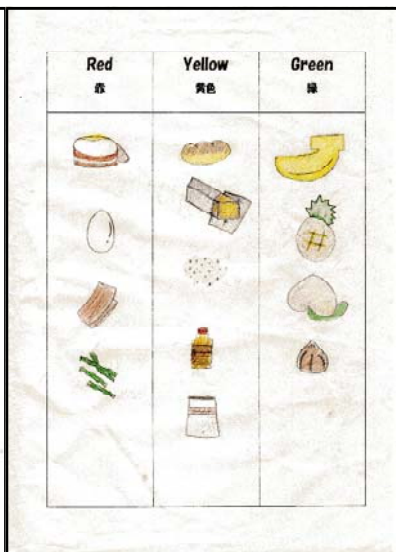
今回の授業実践の中では、今までの他教科の授業や英語活動の中で、児童の興味・関心が高い「食べ物」を題材に取り上げた。また、本校で1年生から取り組んでいる赤・黄・緑の食品群を意識させることができる「健康チェック表『元気な一日・朝の5点』」、昼の給食指導での「食育」や6年生の家庭科で学習した「楽しい食事」での「献立作り」と関連させながら、「ランチメニューを作ろう」という4時間計画の英語活動の授業を行った。英語ノート1のレッスン9「ランチメニューを作ろう」では、「献立作り」を扱っているため、本単元に適切な題材であると考え、その一部を取り入れて授業実践を行った。

家庭科や食育と関連させたり、英語ノートを実態に合わせて取り入れた授業実践

時	ねらい	主な実践内容
1	日本と外国では、主に食べるものが違うことを知り、外国の	○給食ランキングの紹介を導入で取り入れた。 ○児童の実態に合わせたメニューカードを作成し、キ

	食文化に関心をもつとともに、英語での言い方を知らうとする。	ーワードゲームを行った。 ○AL Tの国のランチや食事についての紹介を聞く活動を取り入れた。
2	欲しいものを言うときの丁寧な英語の言い方を聞いたり話したりしながら、英語の発音に慣れ親しみ、友達と楽しく交流する。	○児童の実態に沿ったビンゴメニューカードを作成しビンゴゲームを行った。 ○メニューバスケット（資料1）をした。
3	バランスのよいランチメニューを考え、友達に紹介するために必要な英語表現に慣れ親しむ。	○自分が考えたバランスのよいメニューや食材を栄養素ごとに紹介カード（資料2）に表現させた。 ○友達のメニューへのコメントシールを作成させた。
4	自分が考えたバランスのよいランチメニューを、友達に紹介する活動を通して、友達と気持ちのよい交流をする。	○クラスのいろいろな友達と自分が考えたバランスのよいメニューを交流させる紹介活動を取り入れた。
<p>（本校で取り組んでいる食育と関連させた内容を取り入れた紹介活動での表現）</p> <p>Red color is fish, miso, tofu. Yellow color is oil, potato, mayonnaise, rice. Green color is lettuce, tomato, cabbage, cucumber. My menu is miso soup, baked fish, rice, salad.</p> <p>Thank you. Nice (Good) menu. You are welcome.</p>		

※下線は、家庭科や食育と関連した活動、太字は、英語ノートを取り入れた活動



ゲーム名	メニューバスケット
準備・教材	<ul style="list-style-type: none"> 赤、黄色、緑、の栄養素を意識した色別食材食物カード 赤色のカード 卵、肉 黄色のカード パン、ご飯、油、ジャガイモ 緑のカード トマト、タマネギ、レタス、にんじん、リンゴ、いちご、苺 その他は、黒板掲示用メニューカード（カレー、スパゲティ、オムレツ、ハンバーガー、フルーツパフェ、など） 児童用イス
ゲームの概要	フルーツバスケットゲームの要領で、輪に寄り添って、輪の中にある食材がメニューの名前を言い、自分が持っているカード食材が、メニューの中に入っているとと思ったら隣以外の席に移動する。
ゲームのやり方	<p>①座になった子が、円の中に入る。座っている児童が “What would you like?”と鬼に聞き、鬼は、“I'd like ~”とメニューの名前を連ねて言う。</p> <p>②円になって座っている児童は、鬼が言ったメニューの中に、自分のカードの食材が入っていると聞いたら、座を移動する。（隣の席以外） 鬼は、空いている席に座る。（フルーツバスケットと同じ要領。）</p> <p>③Menu basketと言われたら、全員が座を移動する。 座れなかった人が鬼になり 上記を繰り返す。</p>
使用する表現	What would you like ~? I'd like ~.
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりや気持ちをもってゲームをやるよう指導する。 家庭科の栄養素の学習と連携して行うと効果的である。 児童の実態に合わせて、食材のカードを栄養素の色別（赤、黄、緑）の紙に印刷し、児童に渡してゲームを行う。

(資料1)

② 検証授業の様子

ア 外国の文化を理解する活動（第1時）

事前の児童へのアンケートを基に給食クラスランキングを導入に取り入れ、学級の児童の実態に合わせたメニューカードを作成して、キーワードゲームを行った。そして、AL Tに自国の食文化について紹介してもらい、外国との主食の違いに気付かせた。キーワードゲームでは、自分達に馴染みのあるメニューが、英語で何と発音させるのかをよく聞こうとする児童の態度を見ることができるとともに、AL Tの食事についての説明にも写真を見ながら、興味をもってしっかり聞くことができていた。

イ 英語表現に慣れ親しむ活動（第2・3時）

第2時は、第1時に使用したメニューカードを使用し、ビンゴゲームを行ったり、メニューバスケット（資料1）を行ったりしながら、英語の発音に慣れ親しませ、友達と交流活動を行った。児童は、自分の馴染みのあるメニューを使っのビンゴゲームや家庭科などで学習した

食材を使ったゲームに意欲をもって取り組むことができた。

第3時は、「自分が考えたバランスのよいランチメニュー」などを紹介カード（資料2）に表現しながら、ペアで紹介したり、ALTに分からない発音を聞いたり、次時の紹介活動に使う英語表現に慣れ親しむ活動を行った。児童は、家庭科などで既に学習していることが生かさせるので、意欲的に紹介カードへの記入を行い、「英語活動は難しい」と感じている児童も、英語での言い方を知らないメニューや食材のときには、意欲的にALTに聞こうとする態度も見られた。

ウ 思いを伝える活動（第4時）

第4時は、「自分が考えたバランスのよいランチメニュー」を、紹介カード（資料1）を見せながら友達に紹介する交流活動を行った。第3時までの授業の中で、自分から友達にかかわろうとしない児童の多くが、この活動においては、自分から友達に、自分が考えたバランスのよいメニューを伝えようとしていたり、どの児童も男女にかかわらず多くの友達と自信をもって交流していた様子が見られた。

（2）交流の仕方を工夫した活動案の作成と実践を通して

① 単元の流れ

ア 単元名 行ってみたい国を紹介しよう（第6学年）

イ 目 標 積極的に友達の発表を聞いたり、自分の行ってみたい国について理由を含めて、自分の思いが伝わるように発表したりしようとする。

ウ 単元計画（全4時間）

単元の最初に担任と外国語活動支援員で自分の行ってみたい国とその理由についての会話文のデモンストレーションを行い、この単元で何を目指していくのかを示し、児童に意欲をもたせた。第1時～第3時までは、その目標に向かって、「聞く活動」や「やりとりを楽しむ活動」を繰り返し行い、行ってみたい国とその理由の伝え方の表現に慣れ親しませることを中心に「思いを伝え合う活動」を行った。第4時では、学習形態をグループにし、グループ内で自分が本当に行ってみたい国とその理由について、インタビュー形式で考えを伝え合い、その後発表を行った。

時	活動	ね ら い	主 な 実 践 内 容 (形態)
1	話を聞く	・世界の様々な国や、その国の有名な食べ物やスポーツに興味をもつ。	○外国人に扮し、その国の有名や食べ物やスポーツについて児童の質問に答える。 ○国旗、食べ物、スポーツのカードを使った、「単語カルタゲーム」を行う。(グループ)
2	やりとり	・行きたい国やその理由を伝える表現に慣れ親しむ。	○ Where do you want to go? のチャンツを言う。 ○「マッチングゲーム」を行う。(グループ) ○「国旗集めゲーム」を行う。(クラス全体)
3	やりとりを楽しむ	・尋ねたり、答えたりしながら、自分の行きたい国やその理由を伝える表現に慣れ親しむ。	○ Where do you want to go? I want to go to ~. のチャンツを言う。 ○「わたしはだ～れゲーム」を行う。 (ペア→クラス全体)
4	思いを伝え合う	・行ってみたい国を理由とともに発表したり、友達の行ってみたい国やその理由を知る。	○ビデオを使って、教師に行きたい国とその理由を聞く表現の復習を行う。 ○インタビューをしたり、インタビューに答えたりして行ってみたい国やその理由を知る。 (グループ) ○グループの中で、ほかの班の人にも聞いてもらい

う

たい人を決め、クラス全員でインタビューする。

(インタビューを行う際に活用した表現)

A: Hello.

B: Hello.

A: Where do you want to go?

B: I want to go to Italy.

A: Oh! Why?

B: Because I want to eat pizza.
I want to play soccer.

A: I see. Thank you. See you.

B: See you.

② 検証授業の様子

ア 話を聞く活動 (第1時)

世界の国々の国名やその国の特色ある食べ物やスポーツを知ることができるよう、CDや外国語活動支援員の英語を聞く活動を中心に行った。国名や食べ物、スポーツの名前の中には、普段耳にしている発音とは違うものもあり、その違いを意識できるように発音する際は、強調して行うように工夫した。単語カルタゲームでは、I want to ~.という発話を聞き、発話に合った国旗、食べ物、スポーツのカードを取っていくという活動を行った。はじめは、どれを取って良いのか悩んでいたが、活動が進んでいくと go to は国旗、eat は食べ物、play はスポーツが続くことに気付くことができた児童もいた。

イ やりとりを楽しむ活動 (第2・3時)

「やりとりを楽しむ活動」では、活動内容に合わせてペア、グループ、クラス全体の3つの形態で行った。「マッチングゲーム」では、国旗、食べ物、



資料1 友達ラリーカード

スポーツの3つのカードを選び、その組み合わせをそろえていく活動を行った。友達が何を選んだかが分からないと、カードが揃わないので、友達の発話をしっかり聞くことを中心に活動を行った。「カード集めゲーム」では、異なった4枚の国旗カードを友達とやりとりしながら同じ国旗を集めていくという活動を行った。同じ国旗を集めるという工夫が、児童のやりとりを意欲的にしたと考える。また、「わたしはだ~れゲーム」では、

ビンゴカードを用意し、友達にインタビューしながら相手がだれかを当てていくという活動を行った。この活動では、相手が分からないという活動の工夫が、児童の知的好奇心を喚起し、交流を活発にすることにつながった。

また、自分の思いを伝え合う活動に向けて、だれとでもコミュニケーションを図っていけるように、「友達ラリーカード」(資料1)を作成し、毎時間友達と交流する場を設けた。授業の最初のあいさつや活動しながら、交流した人にシールをもらい、カードに貼っていくように工夫した。はじめは、うまく交流ができなかったが、学習を進めていくうちに、だれに対してもあいさつや声かけなど、自分から友達にかかわっていきこうとする姿が見られるようになった。

ウ 思いを伝え合う活動 (第4時)

自分の行ってみたい国とその理由をワークシート(資料2)に記入し、それを基にインタビューに答えていった。5つに分けたグループを設定し、いろいろな国について知ることができるよう、行ってみたい国が重ならないように工夫した。また、友達が知らない建物や食

資料2 発表用ワークシート

べ物を理由に挙げていた児童も多かったので、行ってみたい理由にあげた建物や食べ物、スポーツをカードにし、インタビューの際に示しながら伝えられるように工夫した。

(3) 自分の思いや願いを表現しようとする場面を取り入れた交流活動を通して

① 単元の流れ

ア 単元名 「自分の行ってみたい場所を紹介しよう」(第6学年)

イ 目標 自分の行きたい場所や、その理由を伝える英語表現に慣れ親しみ、その表現を使って自分の思いや願いを伝えようとしたり、友達の思いや願いを聞こうとする。

ウ 単元計画 (全4時間)

時	ねらい	主な実践内容
1	いろいろな国の有名な食べ物や建物、自然、国旗などについて知り、世界の国に興味をもつ。	○国旗やその国に関する食べ物や建物などのヒントをもとに国名を答える「国あてゲーム」を行う。 ○“Where do you want to go?” “I want to go to 国名.”の表現を聞きながら「ビンゴゲーム」を行う。
2	自分の行きたい国やその理由を伝える英語表現に慣れ親しむ。	○“I want to ~”の表現を聞きながら、出題者の行きたい国を予想して国旗カードをとるカルタを行う。 ○“I want to ~”の表現を発話しながら、国名とその国を表す食べ物や建物を組み合わせる「マッチングゲーム」をする。
3	自分の行きたい国について友達に伝えたり、友達の行きたい国を尋ねたりしながら、進んで友達と交流する。	○国旗カードを使って行きたい国やその理由を伝えるやりとりをする「カード交換ゲーム」をする。 ○自分の行きたい国やその理由を友達と紹介し合う。 【情報交換ができる場面】 友達がどんな理由でどこの国に行きたいと思っているかについて友達と交流し情報交換をする。
4	慣れ親しんだ英語表現を使って、自分の行きたい場所を伝えようとしたり、友達の行きたい場所を聞こうとしたりして進んで友達と交流する。	○修学旅行で訪れる鎌倉や江ノ島の中で、自分の行ってみたい場所やその理由を友達と伝え合う。 【児童の興味・関心に沿った身近な題材をもとに情報交換ができる場面】 前時での交流活動を踏まえ、児童に身近な修学旅行を題材にした交流場面を設定し情報交換をする。

② 検証授業の様子

基本となる英語表現を「聞く活動」、その表現を使い「発話する活動」、慣れ親しんだ英語表現を使って自分なりの思いや願いを「交流する活動」という活動を段階的に組んで授業を行った。その中で、特に第3時では「情報交換ができる場面」、第4時では「児童の興味・関心に沿った身近な題材をもとに情報交換ができる場面」を設定して授業を行った。

ア「情報交換ができる場面」(第3時)

第2時までの活動において慣れ親しんだ“Where do you want to go?”や“I want to go to ~”の表現を使って、自分の行ってみたいと思う国やどうしてその国に行きたいかという理由を伝え合う活動を行った。行きたい国やその理由をしっかりともてるようにするために、いろいろな国の旅行パンフレットを提示し、行きたい国やその理由を考える時間を設けた。行きたいと思う理由については、「○○が食べたい」(“I want to eat ~”)、「○○が見たい」(“I want to see ~”)という2つの理由に絞ってやりとりを行うようにした。こ

の活動は、やりとりをする中で、友達がどんな理由でどんな場所に行きたいと思っているかについて、お互いに情報が交換できる活動であり、一人一人の児童が伝える目的や聞く目的をはっきりとをもって活動に取り組むことができた。


イ「児童の興味・関心に沿った身近な題材をもとに情報交換ができる場面」（第4時）

児童の興味・関心に沿った身近な題材として、11月に修学旅行で訪れる鎌倉や江ノ島の中で、自分の行きたい場所や行きたいと思う理由を伝え合うという活動を行った。実際に訪れることのできる場所について紹介し合うことで、児童はより興味・関心をもって活動に取り組むことができた。また、総合的な学習の時間との関連を図り、鎌倉や江ノ島の史跡や寺社などについて調べたことを基にして、自分の行きたい場所やその理由を考える時間を設定したため、児童が自分の思いや願いを強くもって取り組むことができた。


活動の際には、児童が自分の思いや願いをしっかりと伝え合うことができるように、ワークシートを作成し活用した。表面（資料1）に自分の行きたい場所や理由を書き、裏面には鎌倉市内の地図を載せた。自分が紹介をするときは表面を見せながら話し、相手の紹介を聞くときには地図を見ながら聞くようにワークシートの作成に工夫を加えた。そして、相手の行きたい場所にシールをはるという作業を取り入れ、

Where do you want to go? 名前 _____

★修学旅行で自分の一番行きたい場所とその理由を書こう!!

Start 鶴岡八幡宮 

行きたい場所 → 理由 ~したい!

Goal 旅館 

(行きたい場所の絵をかこう)

(資料1)

相手の伝えたいことにしっかりと耳を傾けて交流することができるようにした。

IV 研究の成果と課題

1 成果

(1) 他教科と関連させた英語ノートの効果的な活用を通して

○児童の実態に合わせて題材を取り上げ、英語ノートを家庭科や食育と関連させて活用したことは、知的好奇心を高め、今まで学習してきたことを生かすことができた。さらに児童の思いや願いに沿うことができるので、関心が高まり、意欲的な交流につなげることができた。

○児童は、自分が考えたバランスのよいランチメニューを英語を使って紹介する活動を通して、家庭科や毎日の食育で学習してきたことを体験的に深めることができた。また、家庭科や食育、英語活動という学習や活動がさらに充実し、児童は、意欲的に自分の思いを伝え合おうとする英語活動に取り組むことができた。

(2) 交流の仕方を工夫した活動案の作成と実践を通して

○ねらいに合わせて交流の仕方をペア、グループ、クラス全体と工夫した活動案を作成し、学習を進めていったことで、だれに対しても気軽に声をかけられるようになった。また慣れ親しんだ表現を使って、ゲームやインタビューを通してたくさんの友達とコミュニケーションを図ろうとし、楽しみながら自分の思いを伝え合おうとする態度が見られた。

(3) 自分の思いや願いを表現しようとする場面を取り入れた交流活動を通して

○「児童の興味・関心に沿った身近な題材をもとに情報交換ができる場面」を取り入れて交流活動を行ったことにより、児童の興味・関心を高めながら活動に取り組みせることができた。それとともに、与えられた基本表現のやりとりをするのではなく、表現の中に、自

分の思いや願いを入れて交流することができ、楽しみながら自分の思いを伝え合おうとしていた。

- 児童一人一人が自信をもち、英語を通して友達と思いを伝え合う活動に取り組むためには、一単元を4時間から5時間で設定することがふさわしいということ、そしてその単元において、基本となる英語表現を「聞く活動」、その表現を使い「発話する活動」、慣れ親しんだ英語表現に自分なりの思いや願いを「交流する活動」という段階を意図的・計画的に組むことが大切であることが分かった。学級担任は、児童に英語を発話することを無理強いせず、児童が英語表現にどれくらい慣れ親しんでいるかをしっかりと把握した上で、交流活動を設定すれば児童は楽しみながら活動に取り組もうとすることが分かった。

2 課題

(1) 他教科と関連させた英語ノートの効果的な活用を通して

英語ノートを家庭科や食育と関連させて活用し、子どもの思いを生かした授業を行ったことにより、友達に認めてもらいたいという思いが高められた。そのため、その自分の思いを児童が楽しみながら伝え合えるよう、紹介カードを使っての小グループでの発表やクラス全体に発表の場を設けるなど、自分の思いを共有していける場をいつ、どのように設定していくかなどの学習形態の工夫が今後の課題である。また、今後は、全体の年間指導計画の中で他教科との関連をどう位置付け、計画的にねらいをもってどのように英語活動と関連させていけるかについて学校全体で取り組んでいくことが課題である。

(2) 交流の仕方を工夫した活動案の作成と実践を通して

- 交流の仕方を工夫した活動案の作成では、従来の活動案の交流の過程に形態を書き込むだけに終始してしまっていたところがあった。どういうねらいで交流を行うのかを明記できるような活動案形式の作成をすることが今後の課題である。
- 児童によって自分から声をかけられず、声をかけてもらうのを待っているだけで交流がうまくできない様子も見られた。児童の実態に合わせて、聞く側と話す側を意図的に分けるなど、交流の場の設定をどう工夫していくかが課題である。

(3) 自分の思いや願いを表現しようとする場面を取り入れた交流活動を通して

今回の授業においては、二人組で交流した後で、全員が教室を自由に回り出会った相手と交流するという形をとった。この場合、より多くの人と交流することに意識が向き、お互いの交流が雑になってしまうことがあった。特に、相手の思いや願いを聞くことに関しては、次の相手を探すことに意識が向き、相手の内容にじっくりと耳を傾けない場面が見られた。今後は、小グループでの交流活動や学級担任、ALTとの交流活動など、交流活動の形態を工夫し、お互いの思いや願いを共有する時間を十分に確保できるようにするとともに、交流活動において相手の思いや願いをしっかりと聞けるように、相手の目を見て聞く、相づちをうつなどの聞く観点をどう意識させて交流活動に取り組みせていくかが今後の課題である。

英語活動ゲームアイデア集

英語ノート1レッスン9、英語ノート2レッスン6で活用できるゲームのアイデアをまとめてあります。

[○英語ノート1レッスン9 メニューバスケット](#)

[○英語ノート2レッスン6 マッチングゲーム 1](#)

[○英語ノート2レッスン6 マッチングゲーム 2](#)

[○英語ノート2レッスン6 国旗集めゲーム \(みんなでフラッシュ\)](#)

[○英語ノート2レッスン6 わたしはだ〜れゲーム](#)

[○英語ノート2レッスン6 国旗ビンゴゲーム](#)

[○英語ノート2レッスン6 国旗カルタゲーム](#)

[○英語ノート2レッスン6 カード交換ゲーム](#)

[○英語ノート2レッスン6 仲間集めゲーム](#)

ゲーム名

<メニューバスケット>

単元名

英語ノート1、レッスン9 ランチメニューをつくろう

ねらい

家庭科の学習や食育と関連させたゲームである。ランチメニューに使われる食材や赤、黄、緑の3食分けを意識させることができるとともに、楽しみながら、ランチメニューの発音に慣れ親しむ。

準備・教材

○赤、黄、緑の3食分けを意識した色別具材食物カード。

赤のカードは、卵、肉など。黄のカードは、パン、ご飯、油、ジャガイモなど。緑のカードは、トマト、タマネギ、レタス、にんじん、リンゴ、いちごなど。

○できれば、黒板掲示用メニューカード（カレー、スパゲティー、オムレツ、

ハンバーガー、フルーツパフェなど)

○児童用イス

ゲームの概要 フルーツバスケットゲームの要領で、輪になって座り、輪の中にある鬼がメニューの名前を言い、自分が持っているカードの具材が、メニューの中に入っていると思ったら隣以外の席に移動する。

ゲームの仕方

①鬼になった児童が、円の中に入る。座っている児童が

“What would you like?” と鬼に聞き、鬼は、“I'd like ~” とメニューの名前を選んで言う。

②円になって座っている児童は、鬼が言ったメニューの中に、自分のカードの具材が入っていると思ったら、席を移動する（隣の席以外。）鬼は、空いている席に座る。

（フルーツバスケットと同じ要領。）

③Menu basket と言われたら、全員が席を移動する。

座れなかった児童が鬼になり上記を繰り返す。

使用する表現 What would you like ~? I'd like ~.

留意点

- ・思いやりの気持ちをもってゲームをするよう助言する。
- ・家庭科の栄養素の学習と連携して行くと効果的である。
- ・児童の実態に合わせ、食材のカードを栄養素の色別（赤、黄、緑）の紙に印刷し、児童に渡して

ゲーム

を行う。

ゲーム名

<マッチングゲーム 1 >

単元名	英語ノート2、レッスン6 行ってみたい国を紹介しよう
ねらい	I want to go to 国名. I want to eat/play ~. の発話に慣れ親しむ。
準備・教材	国旗カード、その国の有名な食べ物・スポーツのカード
ゲームの概要	神経衰弱のように、国旗、食べ物、スポーツのカードを伏せておき、発話しながらカードをめくり、3つのカード揃えていく。

ゲームの仕方

- ① 国旗、スポーツ、食べ物のカードをそれぞれのカテゴリーごとに分けて伏せていく。
- ② どのカテゴリーからでも構わないので、発話しながらカードをめくっていく。
(例：国旗は、I want to go to ひいたカードの国名。)
- ③ 3つが合っていれば、そのまま引き続きカードをめくっていく。合わなければ、全てのカードを裏返しにして、次の人と交代。

使用する表現

I want to go to ~. I want to play ~. I want to eat ~.

留意点

- ・どの表現を使えばよいか分かるように、カードは、カテゴリーごとに置く。
- ・表現に慣れ親しむことがねらいなので、発話しながらカードをめくることを周知徹底していく。

ゲーム名 < マッチングゲーム 2 >

単元名	自分の行ってみたい場所を紹介しよう
ねらい	“I want to~ “の英語表現に慣れ親しむ。
準備・教材	国旗カード、国の代表的な建物、自然、食べ物、動物のカード
ゲームの概要	国旗カード（裏面が赤色）、食べ物、建物、動物のカード（裏面が青色）

をそれぞれ裏返し、カードをめくって英語表現を発話し組み合わせをそろえるゲーム。トランプの神経衰弱ゲームを応用したもの

ゲームの仕方（活動形態：4～5人のグループ）

①グループで輪になって座る。（床の上などがよい）

②国旗カードと国の代表的な建物、自然、食べ物、動物のカードをグループに配り、裏返しにして任意に並べる。

③最初に裏面が赤色の国旗カードを返す。

国旗カードを返す場合は、“I want to go to 国名.” と発話する。

④次に裏面が青色の建物、自然、食べ物、動物のカードを返す。

カードを返す場合は、“I want to eat 食べ物.” “I want to see 建物・自然・動物.” と発話する。

⑤それぞれ国とその国の代表的な建物、自然、食べ物、動物などの組み合わせがそろえば、そのカードをもらう。そろわなかった場合は、元に戻す。

使用する表現

I want to go to 国名. I want to eat 食べ物. I want to see 建物・自然・動物.

留意点

- ・“I want to go to 国名.” “I want to eat 食べ物.” “I want to see 建物・自然・動物.” などの表現をしっかりと言いながらカードを返すようにする。
- ・国名や食べ物、建物、自然、動物などの名前を英語で言うことにあまりこだわらず、分からない場合は日本語で言ってもよいことにする。“I want to go to 国名.” “I want to eat 食べ物.” “I want to see 建物・自然・動物.” の表現をたくさん発話したり聞いたりする中で、go は行く、eat は食べる、see は見るなどの意味が理解できるようにしていく。

ゲーム名

<国旗集めゲーム（みんなでフラッシュ）>

- 単元名 英語ノート2、レッスン6 行ってみたい国を紹介しよう
- ねらい 友だちとカード交換をしながら、“I want to go to 国名.”の表現に慣れ親しむとともに、友達とのやりとりを楽しむ。
- 準備・教材 10カ国の国旗カードをそれぞれ15枚以上
- ゲームの概要 ○最初に一人ずつ全てちがう国旗カードを5枚配る。
○出会った人と会話をして、カードを交換し、手持ちの5枚のカードを全て同じカードにしていく。
○全てのカードが同じになったら、大きな声で “I want to go to そろった国名.”と叫ぶ。

ゲームの仕方

- ① ちがう国旗カードを5枚ずつ配る。
- ② 歩きながら相手を見付ける。
- ③ 先に声をかけた方から、**I want to go to～.** と言いながら相手にその国旗カードを渡す。
- ④ 渡された人は、もらったカード以外のカードを **I want to go to ～.** と言いながら相手に渡す。
- ⑤ 5枚の手持ちのカードが、全て同じカードになるまで同じことを行う。

A : Hello.

B : Hello.

A : I want to go to 国名.

(自分の持っているカード中から選び、 そのカードを相手に渡す。)

Where do you want to go ?

B : I want to go to 国名.

(自分の持っているカード中から選び、相手に渡す。)

A : Oh! Nice! I see!

Good bye.

B : Good bye.

使用する表現

I want to go to ~. Where do you want to go?

留意点

- 最初に声をかけた方が5枚のカードをそろえやすくなるように、自分の行きたい国を言うてか
ら、質問するようにする。

ゲーム名

<わたしはだ〜れゲーム>

单元名	英語ノート2、レッスン6 行ってみたい国を紹介しよう
ねらい	尋ねたり、答えたりしながら、自分の行きたい国やその理由を伝える表現に慣れ親しむ。
準備・教材	国旗、食べ物、スポーツを書き込んだワークシート、一人一人の紹介カード、探検バック
ゲームの概要	インタビューを行いながら、相手の名前を当てていき、ビンゴを完成させていくゲーム。

ゲームの仕方

- ① 国旗、食べ物、スポーツ名がかき込まれたワークシートと、自分用の紹介カードをもらう。(自分がだれ役で、行きたい国、やりたいスポーツ、食べたい食べ物を把握する)

② 交流しながら話を聞き、相手がだれなのかを考え、質問する。

A : Hello. B : Hello.

A : Where do you want to go ?

B : I want to go 国名. I want to play ~. I want to eat ~.

A : Are you ~?

B : Yes/No , I am ~. Where do you want to go ?

A : I want to go 国名. I want to play ~. I want to eat ~.

B : Are you ~?

A : Yes/No, I am ~.

B : Nice meet you.

A : Nice meet you.



使用する表現

Where do you want to go? I want to go to 国名.

I want to eat ~. I want to play ~.

I want to see ~.

留意点

- ・ たくさんの人とやりとりができるよう、16人全員を見つけさせていく。
- ・ 同姓とだけの交流にならないよう、自己紹介カードの配り方を工夫する。

(男子だけ配るカード、女子だけ配るカードを作る等)

ゲーム名

<国旗ビンゴゲーム>

単元名

自分の行ってみたい場所を紹介しよう

ねらい いろいろな国の英語での表現を知るとともに、“Where do you want to go?” “I want to go to 国名.” の表現を繰り返し聞き耳に慣れ親しませる。

準備・教材 ビンゴシート、国旗カード

ゲームの概要 ビンゴシート上に、任意の国旗カードを置き、出題者の“ I want to go to 国名. ” の表現を聞いて、カードを裏返ししながらビンゴをそろえるゲーム。

ゲームの仕方（活動形態：4～5人のグループ）

- ①ビンゴシート上の好きな場所に国旗カードを置く。
- ②HRTが出題者のALTに“Where do you want to go?” と尋ねる。
- ③ALTはそれに対して“ I want to go to 国名. ” と答える。
- ④裏返してビンゴをそろえる。
- ⑤ビンゴがそろうまで、上記のことを繰り返す。

使用する表現

Where do you want to go? I want to go to 国名.

留意点

- ・ “Where do you want to go?” “I want to go to 国名. ” の表現にじっくりと耳を傾けさせるよう、最後まで表現を聞くことを伝える。
- ・ 出題者は、わざと前に出てきた国をもう一度発話したり、小声で発話したりしながら、児童がじっくりと英語表現に耳を傾けるよう工夫しながら出題する。
- ・ ビンゴシートを一般的な正方形のマス目にするだけでなく、さまざまな形にするとビンゴをそろえる難易度が上がり、より興味・関心をもたせながら取り組ませることができる。
- ・ 活動に慣れてきたら、“Where do you want to go?” “I want to go to 国名. ” の質問のやり取りを児童にやらせてみてもよい。

ゲーム名

<国旗カルタゲーム>

- 単元名 自分で行ってみたい場所を紹介しよう
- ねらい “I want to ~” の表現を繰り返し聞き、耳に慣れ親しませる。
- 準備・教材 国旗カード、国の代表的な建物、自然、食べ物、動物などが書かれたカード
- ゲームの概要 出題者が、ある国を表す食べ物や建物、自然、動物などのヒントを出し、そのヒントからどの国のことであるかを予想して国旗カードをとるゲーム。

ゲームの仕方（活動形態：4～5人のグループ）

- ①グループで輪になって座る。
- ②国旗カードをグループに配り、任意に並べる。
- ③手を頭上におき、出題者のヒントを聞く。
- ④出題者は、第1ヒントとして、“I want to eat 食べ物。”
第2ヒントとして “I want to see 建物・自然・動物。” と発話して、最後に “I want to go to 国名.” を発話する。
- ⑤上記のヒントを聞き、国を予想して国旗カードをとる。

(例) I want to eat 麻婆豆腐.

I want to see パンダ.

I want to go to China.

使用する表現

I want to go to 国名. I want to eat 食べ物. I want to see 建物・自然・動物.

※児童の実態に応じて、I want to play スポーツ. などの表現を入れてもよい。

留意点

- ・“I want to go to 国名.” “I want to eat 食べ物.” “I want to see 建物・自然・動物.” など

の表現にじっくりと耳を傾けさせるよう、最後まで表現を聞くことを伝える。

- ・ 出題者は、わざと間違えたり、小声で発話したりしながら、児童がじっくりと英語表現に耳を傾けるよう工夫しながら出題する。

ゲーム名 <カード交換ゲーム>

単元名 自分の行ってみたい場所を紹介しよう

ねらい “Where do you want to go?” “I want to ~ ” の英語表現を使って、相手と簡単な交流ができるようにする。

準備・教材 国旗カード

ゲームの概要 配られた国旗カードを使って行きたい国やその理由を伝え合うゲーム。

ゲームの仕方（活動形態：全員）

- ① 1人一枚任意の国旗カードを配り、教室を回り、出会った相手とジャンケンをする。
- ② ジャンケンに勝った方から “Where do you want to go?” と質問する。
- ③ 自分の持っている国旗カードの国名で “I want to go to 国名. ”、またその理由 “I want to eat 食べ物. ” “I want to see 建物・自然・動物. ” を答える。答え終わったら、相手に “Where do you want to go?” と質問する。
- ④ 同じように、自分の持っている国旗カードの国名で “I want to go to 国名. ”、またその理由 “I want to eat 食べ物. ” “I want to see 建物・自然・動物. ” を答える。
- ⑤ 互いのやりとりが終わったら、カードを交換して次の相手を探す。
- ⑥ 時間まで上記のことを繰り返す。最後に、教師がラッキーカードを決め、最後にそのカードを持っている児童を勝者とする。

使用する表現

Where do you want to go? I want to go to 国名. I want to eat 食べ物.

I want to see 建物・自然・動物.

留意点

- ・相手の目を見て、じっくりとやりとりを行うようにさせる。
- ・国→食べ物、建物、自然、動物などの関係が把握できるよう、そのつながりを活動前にチャンツなどで復習し、それぞれカードを黒板に掲示しておくとい。

ゲーム名 <仲間集めゲーム>

単元名 自分の行ってみたい場所を紹介しよう

ねらい “Where do you want to go?” “I want to go to 行きたい場所.” の表現を使って友だちと簡単な交流ができるようにする。

準備・教材 鎌倉・江ノ島の史跡や寺の書かれたカード

ゲームの概要 配られたカードを使って行きたい場所を聞いたり伝え合い、同じカードを持っている仲間をさがすゲーム。

ゲームの仕方（活動形態：4～5人のグループ）

①一人一枚、何パターンかのカードを配る。

（二人組になることができるようにする。）

②教室を回り、出会った相手に “Where do you want to go?” と質問する。

③質問されたら自分の持っているカードの場所で “I want to go to 場所.” を答える。答え終わったら、相手に “Where do you want to go?” と質問する。

④同じように、自分の持っているカードの場所で “I want to go to 場所.” を答える。

⑤同じカードならその場に座る。

使用する表現

Where do you want to go? I want to go to 行きたい場所.

留意点

- ・相手の目を見て、じっくりとやりとりを行うようにさせる。
- ・相手と出会った時と別れる時にはあいさつを必ず交わすようにし、温かい雰囲気の中で活動

を行えるようにする。

- ・ 仲間が見つかった時は、“Me too!” と声をかけあうようにする。

クラスルームイングリッシュ集

児童が生き生きと英語活動に取り組むために、教師自らが、英語活動を楽しみながら英語を話そうとするモデルになることが必要であると考えます。そこで、授業において、短いフレーズの英語表現を教師が活用できるクラスルームイングリッシュ集を作成しました。

Classroom English

- 英語を流暢に話そうと思わずに、児童と一緒に使える表現から少しずつ使ってみましょう。
- 簡単でわかりやすい英語表現を児童の実態に合わせて使いましょう。
- ジェスチャーをつけたり、短いフレーズを繰り返したり、英語表現に児童も教師も慣れていきましょう。

☘ 授業の開始時に使える表現 ☘

こんにちは/おはようございます/	Hello/ Good afternoon / Good morning/
調子はどうですか？	How are you?
今日のレッスンを始めます。	Let's start today's lesson!
立ってください。	Stand up, please.
座ってください。	Sit down, please.
天気はどうですか。	How is the weather?
今日は、何月何日ですか。	What is the date today?
今日は、何曜日ですか。	What day is it today?



☘ 授業中、指示する時や注意する時に使える表現 ☘

私を/カードを/黒板を/見なさい	Look at /me/ the card / the blackboard.
こちらに来てください。	Come here.
もっと近くに来て	Come closer.
ここにいて	Stay here.
席に戻ってください。	Go back to your seat.
しっかり聞いてください。	Listen carefully.
大きな声で話して。/はっきりとした声で	Speak up. / Speak louder. /Clear voice!
はっきり話して。	Speak clearly.

静かにしなさい。/話をやめなさい。	Be quiet, please. / Stop talking.
手を挙げなさい。	Raise your hands.
手を下ろしなさい。	Put your hands down.
もう一度言って。	Pardon me?/Say it again. /Once more please.
もう一度やって。	One more time. /Once more.
私のあとについて繰り返しなさい	Repeat after me.
恥ずかしがらないで。	Don't be shy.
落ち着いて。	Relax.
ゆっくりやればいいよ。	Take your time.



授業中、アクティビティーやゲームの中で使える表現



用意はいいですか？	Are you ready?
始めましょう。	Let's start.
ゲームをしましょう。	Let's play the game.
どうぞ（物を渡すとき）	Here you are.
拍手をして	Clap your hands
やってくれる人？	Any volunteers?
2列になりなさい。/2つのグループに分かれて。	Make two lines. /Make two groups. (teams.)
ここに並びなさい。	Line up here.
後ろに下がって	Move back.
4人1組になりなさい。	Make groups of four.
ペアになって	Make pairs.
相手を代えなさい。	Change partners.
向かい合いなさい。	Face each other.
円になって。	Make a circle.
誰の番ですか？	Who's next?
誰が最初？	Who's first?
あなたの番ですよ。	Your turn. / It's your turn.
何か質問はありますか？	(Do you have) any questions?
練習しましょう。	Let's practice.
全員で	Everybody. / Let's say it together.
1. 2. 3. はい！	One, two, three, go!
英語で言ってください。	In English please.
3ページを開きましょう。	Open your book to page 3.
CDを聞きなさい。	Listen to the CD.
英語では、～はなんと言いますか？	How do you say～ in English.

カードを1枚取りましょう。	Take one card.
カードを交換しなさい。	Exchange cards.
他の人にカードを見せないでね。	Don't show your cards to anyone.
カードの数/ポイントを数えてください。	Count your cards. /points.
カードを集めなさい。	Collect your cards.
誰が勝ちましたか	Who won?
私の勝ちです。	I won.
私の負けです。	I lost.
引き分けです。	It's a tie.
時間です。	Time is up.
もうできましたか。	Are you finished?



誉めるとき・励ますときに使える表現



いいですね。	Good. /Great. / Fine. / Ok. / Nice.
良くできました。	Good job! / Well done!
すごいね/素晴らしい/とっても素晴らしい	Perfect! / Excellent! / Fantastic
良くなってきましたね。	You are getting better.
おめでとう。	Congratulations.
正解です。その通り。	That's right!
いい考えですね。	It's a good idea. /That's a good idea.
その調子。	Way to go. /Keep it up.
おもしろいね。	Interesting
よくがんばったね。	Good try / Nice try.
大丈夫（ミスをしたときなどに）	It's OK.
心配しないで	Don't worry.
がんばって	Do your best. / Good luck!
惜しい!	Close! / Almost!
あきらめないで	Don't give up.



授業の終わりに使える表現



今日は、これで終わりです。	That's all for today.
今日の授業は楽しかったですか?	Did you enjoy today's class?
次回会いましょう。	See you next time.
さようなら。	Good-bye.